

若手社員もベテラン社員も必読! 新社会人にもお勧め!

# 驚速仕事術

1時間を2倍にも  
3倍にも使える

仕事の効率がみるみるアップする「情報整理法」のすべて

平成15年4月1日発行特別編集増刊号 昭和62年1月22日第三種郵便物認可

THE **21**

いまく使える仕事術マガジン

4月特別増刊号

PHP INSTITUTE  
APRIL 2003

定価800円

「超」整理法の著者が提唱する、タイムマネジメントの新技术とは?

手帳は予定を埋めるためではなく、空けるためにある —— 野口悠紀雄

「捨てる!」技術の著者が訴える、デジタル時代の情報整理法とは?

「データの客観性」よりも「自分の直観」を信じよう —— 辰巳 渚

早大ラグビー「完全復活」の立役者が明かす、組織力アップの法則とは?

「基本の反復×情熱」で、どんな壁でも突破できる —— 清宮克幸

誌上カウンセリング

**中谷彰宏&山咲千里**

仕事がうまくいかない「読者の悩み」に答えます!

効率アップの⑦テクニックを学ぼう!

「仕事が速い人」になれる7冊の本  
仕事がグングンはかどる「四つの力」を鍛えよう

第一線の現場で活躍するビジネスパーソンの「情報整理の習慣」とは?

佐々木恭子(ニュース・キャスター) / 中西哲生(スポーツ・ジャーナリスト) / 千葉麗子(チェリーベイブ代表取締役) / アーネスト P. グリア(日本スチールケース代表取締役社長) / 伊藤雅仁(グッドローン代表取締役社長) / 福里真一(ワンスカイ CMプランナー) ほか

「仕事の人たちの  
ノウハウを盗む」

# 「思いついたらすぐメモ」で アイデアの切れ端をつかまえる

近藤 昇

こんどうのぼる ● ㈱ブレインワークス代表取締役



## 「ITの専門家が実践する 『超アナログ』メモ術とは

「IT業界の工務店」と銘打ち、中小企業の経営支援を主な業務とする㈱ブレインワークス。その代表取締役を務めるのが、創業者でもある近藤昇氏(40歳)だ。神戸と東京の両本社を忙しく往き来しながら、各地で講演会の講師やセミナーのパネラーをこなす。その合間を縫って、雑誌やウェブサイトにも寄稿。書店には彼の著作が何冊も並んでいる。まさに八面六臂の活躍である。

その近藤氏、近著のなかで「情報収集や整理には手書きメモが最も有効」と主張している。なぜITの専門

化が流行りの電子機器でなく、アナログの極みである手書きメモなのか。

「PDAや電子手帳は、情報やアイデアを記録するツールとしては使い勝手が悪すぎます。まず、図や絵が描けないのは致命的だし、『いつでもどこでもすぐに』という要求にも対応しきれない。私の場合、明け方に寝床のなかでアイデアがひらめくことが多いのですが、『部屋の電気をつけ、PDAのスイッチを入れて』などと悠長なことをやっていたら、アイデアはあっという間に消えてなくなってしまう。アイデアや思いつきというのは煙や霞みたいなもの、切れ端だけでも瞬時につかまえる

## PROFILE

1962年、徳島県生まれ。神戸大学工学部建築学科卒業。中堅ゼネコン、コンピュータ関連会社を経て、93年12月、ブレインワークスを設立。現在、「IT業界の工務店をめざす」をモットーに、中小企業支援事業を展開中。著書に、『だから中小企業のIT化は失敗する』『仕事は自分で割れ!』(ともにオーエス出版)などがある。



商談中はA5サイズのメモでは失礼なので、大きめのノートを使用している

## ■"近藤式"手書きメモ術



### ①アイデアを思いついたら即メモ

リング式のメモ帳(A5サイズ)と赤と黒のペンはあらゆるところで用意している。アイデアは思いついた瞬間が勝負。どんなに汚い字でもいいので即メモ。PDAや電子手帳では、「部屋の電気をつけ、PDAのスイッチを入れて」などとやっているうちに、アイデアが消えてしまいかねない

### ②複数のメモに書いたものを一元化

複数のメモ帳に書いたメモを、ポケットに携帯しているメモ帳に集約する。そのやり方は、ほかのメモ帳に書き込んだページを破いてもってきて、ただ挟んでおくだけ



スケジュールはアシスタントがコンピュータで管理。それを3週間先までプリントアウトして携帯している

### ③処理したものに線を引いていく

メモは書きっぱなしでは意味がない。つねに読み返し、その役目を終えたものからどんどん線を引いて消していく。どうしてもすぐに行動に移せないビジネスのアイデアは、パソコンに保存する



られるかどうか勝負なんですよ」  
 そういつて近藤氏が取り出したのは、ページがリングで綴じられた、どこにでもある小型のメモ帳。これが会社、家、クルマのなかと、何冊も置いてあるのだという。

「メモを書いたらその場で破り、ポケットに入れておくメモ帳にどんどん挟んでいく。これで、どこに書いたか悩むのは防げます。ポケットのメモは一日に何度も見直すので、役目を果たしたものは線を引いて消し、全部消えたページは捨てるから、整理に時間もかからない。どうしても消せないか、保存しておく価値があると判断したもののみ、月に一度くらいの割合でパソコンに入れます」

近藤氏はこのメモ術を編み出したからというもの、講演や執筆のネタを考えるのに、まるで苦労しなくなつたという。現在、パソコンに保存されているビジネスのアイデアは、優に千を超えるそうだ。

**あとで役に立つアイデアほど記録しないと忘れてしまつ**

そんな近藤氏も意外や意外、二十代のころはメモどころか、手帳を持ち歩く習慣すらなかったという。

「記憶力には自信があったんで、スケジュール帳は必要なかったし、情報収集など意識もしていなかったから、とくに書くこともなかったんで

すよ。当時は、三十歳になったら自分で事業を始めようと考えていたのですが、発想法の本は何冊も読んでいたが、メモが大事なんて、どこにも書いてなかったです(笑)」

ちなみに発想法の本はまるで役に立たなかったという。真に発想力がついたのは三十一歳で会社を起し、社長となつてからだそうだ。

「起業して初めてわかりましたが、中小企業の経営者というのは、資金繰りから営業先の開拓、社員の採用まで、すべて自分でやらなければならぬので、毎日、目が回るくらい忙しいんです。そのうえ、つねに新しいビジネスのアイデアを捻り出せなければ、生き残っていきません」

そこで近藤氏は、仕事や経営の参考になりそうな本をむさぼり読み、人に会って話を聞くことから始めた。そして、愚直なまでにメモをとつた。駆け出し経営者が知らない情報は山のようにあり、見聞きしたことは一つとして忘れたくない。だから、とにかく書いて残すしかなかったのだ。

近藤氏によれば、それまでは発想力をつけようにも、発想に必要な情報の蓄積が圧倒的に少なかったのだという。そして、知識や情報が増えるにつれ、自然といろいろなアイデアが湧くようになったそうだ。

「ふとした思いつきが事業化したケースはたくさんあります。その大半

**1 1日の平均的なタイムスケジュールを教えてください**

**起床** 4:00 (冬は5:00) 目覚まして起きたのは、これまでに2回だけ  
**出社** 7:00  
**退社** 20:00 人に会うので一定していない  
**帰宅** 21:00 飲みにいけば深夜に及ぶこともある  
**就寝** 23:00 何も無い平和な日の場合

**2 1日に何本くらいメールをやりとりますか?**

100~200本 (返信は30~40本)

**3 いつもカバンに入れて持ち歩いているモノは何ですか?**

メモ帳、ボールペン (赤、黒各1本)、スケジュールのプリントアウト。パソコンは携帯しない

**4 デスク周りの整理整頓はどのくらいの頻度で行ないますか?**

基本的に、毎週土曜日に行なっている

**5 仕事のモットーを教えてください**

どうせやるなら仕事は楽しく。ついでに相手も笑わせる



「IT業界の工務店をめざす」をモットーに、総合的な中小企業支援事業を展開しているブレインワークス

近藤氏が考える「情報整理」のコツとは?

バラバラに集めた情報を定期的に一元化する

「メモが続かない人は丁寧にとか、分類しようとか、そういう余計なことにはエネルギーを割きすぎです。たしかに、きれいな字で整理されていれば、あとで使いやすいような気がするし、気持ちいいでしょう。でも、きれいにノートをとる学生が必ずしも成績がいいわけではない。殴り書きだろうがなんだろうが、メモはそこに書かれた内容がゆくゆく仕事で活かせたり、人生をよりよく生きるのに役に立てばいいのです。実際、私のメモは、字にセキユリテイーがかかっているんじゃないかと皮肉られるくらい、まず私以外、何が書いてあるかわかりません(笑)。大切なのは瞬発力と情報の頭出しができるようになっていくかどうかだけ。たとえば、ここに今日の日付と『写』と書いてありますが、これは、『この日は取材だから写真写りのいいネクタイを締める』という意味です。私じゃなければ絶対にわかりません」

近藤氏はこの手書きメモ術のほかにも、ユニークな情報収集法をいくつも実践している。自家製の「近スタンプ」は、新聞や雑誌のこれとは違う記事に押しおくと、あとで社員がその部分をコピーしておいてくれる。また会社では、社員が「こんなネタ、見つけました」というFAXやメールを、直接、近藤氏や経営幹部宛てに随時送れるシステムをつくっている。

「情報収集力とはつまるところ、二十四時間、それを眠っているあいだもアンテナを張り巡らし、一つたりとも逃さないぞという執念です。私は子供と遊んでいるときも、ひらめけばその場でメモをとるし、なにもメモするものがなかったときは、電話で話している相手に向かって、いまからいうことを書けと命じたことすらあります。創造力とは結局、どれだけ情報をキヤッチできるかと、自分の頭から出てくるアイデアをいかに逃さないかに尽きます」

近藤さんのスタイルは、お世辞にもスマートだとはいえない。最新の電子機器を使った情報整理が見た目も鮮やかな道場剣法だとすれば、近藤式メモ術はさながら野武士の剣術だ。無骨で泥臭い。だがいざ戦場で刀を交えれば、どちらが威力を発揮するかはいまでもないだろう。ビジネスこそ現代の戦場である。